

授業科目名	手形・小切手法	期別	後期	授業形態	講義
担当者名	井上 能孝	単位数	2	開講年次	2 (18台以前)

授業科目の概要

手形と小切手に関し、利用方法や利用形態を知り、手形の振出（作成・交付）、流通（裏書）、決済（支払）等の過程で生じる様々な法的問題を解説する。一方、これらの法的問題を解決するため条文規定を確認し、主な学説を理解した上で、比較し判例を分析する。

但し本講義では、統一手形用紙を用いて作成された手形を、手形交換所を通じて決済する、現代の実務を中心に取扱う。一方で、現在重要性の高い銀行振込やクレジット・カード、電子マネーや 21 世紀型の手形ともいわれる電子記録債権や、株式、社債、株式等の振替に関する法律や金融商品取引法の対象となる現代の金融商品の概要について解説する。

また、代表取締役による手形の濫用や利益相反取引に該当する手形行為、有価証券法理等、会社法・商法に関連する論点については、重点的に学習する。

到達目標

- (1) 手形・小切手の現代的機能と利用方法を理解すること。
- (2) 手形法・小切手法の基本的仕組みと基本理論を理解すること。
- (3) 手形に関する基本理論を理解し、事例の問題を解決するための法的な分析力、思考力、論理構成力を養うこと。
- (4) 銀行振込やクレジット・カード、電子マネー、デビット・カードなどの現代の決済システムの仕組みを理解すること。
- (5) 近時、普及しつつある電子記録債権の概要を知ること。
- (6) 株式、社債、株式等の振替に関する法律や金融商品取引法の対象となる現代の金融商品の概要を知ること。
- (7) 会社法に関連する論点については、重点的に、自分の考えを表現することが出来るようになること。

成績評価基準および方法

手形制度につき、実務上必要な知識を有し、特に会社経営上生じうる紛争に関して法的な問題点を指摘し、法的主張を行うことができるか否かについて、定期試験（60%）、レポート（20%）、授業での発言等（20%）を勘案し、絶対評価で評価する。

テキストおよび参考文献

- ①はテキストとして使用するので、必ず購入すること。②の判例集は、参考文献であり購入することが望ましい。
- ① 小塚莊一郎・森田果『支払決済法〔第3版〕』有斐閣、2018年、2,750円、ISBN978-4785726041
 - ② 神田秀樹・神作裕之編『手形小切手判例百選〔第7版〕』有斐閣、2014年、2,420円、ISBN978-4-641-11522-4

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

- ・オリエンテーション時に、オリジナルの資料を配布する。授業は、条文と関連する判例を中心とした授業を行う。
- ・予習として、教科書の該当部分を事前に読んでくること。それ以外の予習は要しない。（想定予習時間は1～2時間）
- ・復習は、百選に掲載された関連判例を読み、概要を理解すること。（想定復習時間は1～2時間）

授業計画および内容等

第1回	オリエンテーション	・手形・小切手に関するビデオの視聴 ・手形・小切手の概要・機能・条文の構造 ・手形小切手法の学習方法
第2回	総論	・支払手段法の役割、多様性、機能、特徴 ・決済システムの機能と規制
第3回	銀行振込	・仕組み、預金取引、銀行間決済システム、収納代行・代引き・資金移動業

第4回	手形(1)	- 手形法の構造、記載事項（必要的記載事項、無益的記載事項、有害的記載事項） - 手形の法的性質（要式証券性、文言証券性、設権証券性、無因証券性、指図証券性等）
第5回	手形(2)	約束手形の基本、振出し、手形理論（交付契約説、二段階創造説）
第6回	手形(3)	- 約束手形の流通（譲渡の手続、善意取得、手形抗弁）、 - 現在の手形実務（統一手形用紙、取立依頼、手形交換所、拒絶証書不要文言）
第7回	手形(4)	人的抗弁の切断に関する判例
第8回	手形(5)	白地手形、特殊な裏書、変造
第9回	手形(6)	支払い、遡求
第10回	手形(7)	権利の消滅、手形訴訟、代表取締役の権利濫用としての手形行為
第11回	小切手	仕組み、振出し、線引小切手
第12回	有価証券理論	手形・小切手以外の有価証券（貨物引換証、預り証券、倉荷証券、船荷証券等）
第13回	電子記録債権	発生、譲渡、消滅
第14回	電子マネー等	- 電子マネー（プリペイド式、ポストペイ式、サーバー型） - プリペイドカードとデビットカード
第15回	その他	クレジットカード、社債、各種信託受益証券、株式、社債、株式等の振替に関する法律
関連 URL		
備考欄		